

令和3年度事業報告

概要

一昨年から出現した新型コロナウイルスの感染はなかなか治まらない状況が今も続いており、令和3年度の当公社の事業へも大きな影響が出てしまいました。感染は第5波、第6波と次々と波が訪れる状況で、外出の自粛や会議、各種イベントの中止などが求められました。当公社及び関係団体におきましても、新型コロナウイルスの影響で様々な事業の中止を余儀なくされ、計画した多くの事業が実施できなくなってしまう、前年度に続き大変残念な1年となってしまいました。

農地の利用集積促進関係では、農地の集積・集約化を図るべく、平成26年度から宮城県農地中間管理機構であるみやぎ農業振興公社と業務委託契約を締結し、農地中間管理事業と従前からの農地利用集積円滑化事業と並行して推進してきましたが、令和2年4月の法改正により農地中間管理事業に一本化されたため、農地中間管理事業を主体に活動しています。令和3年3月末の累計面積は、農地利用集積円滑化事業が772ha（前年比223ha減）、農地中間管理事業が835ha（前年比207ha増）となり、農地中間管理事業が農地利用集積円滑化事業を上回ることとなりました。両者の合計で1,607ha（前年比15ha減）になっています。また、担い手の農地利用集積状況は、令和3年3月末で集積率52.0%（前年52.3%）となっています。

農業経営改善支援関係では、農業経営改善計画（認定農業者の申請）の作成支援・審査、角田市農業青色申告会活動の支援等を行い、農業経営改善の支援を行ってきました。

農業人材育成関係では、あぶくま農学校関係で、角田の次代を担う若い人たちの育成の場としてきた「風の塾」や新規就農者対策として開催してきた「土の塾」も、前年度に引き続き新型コロナの影響により開催できませんでした。さらに「農業経営実践塾」につきましても、「出前塾」として参加していた東京工業大学留学生の対象事業が中止となり実施できませんでした。

新規就農者の確保対策関係では、公社が支援の窓口を担うことを前提に、まず、先進地の視察や角田市の現状を把握するための生産者へのアンケートを実施いたしました。また、角田市地域おこし協力隊の活動支援団体として登録し、令和4年1月から農業の振興に関する活動を行う「地域おこし協力隊員」を受け入れて、その活動を支援しました。

都市消費者等交流事業では、友好都市である目黒区との結びつきを考慮し、目黒区との交流を重点的に取り組んできました。以前行われていた目黒区の小学校が学校行事として市内の小中学校との農村交流体験は未だ実現していませんが、目黒区内の交流実行委員会が学区内の小学生を募集して、田植え、稲刈りの時期に来角しに交流が行われるようになってきていました。しかし、これも新型コロナの影響により、前年度に続き訪問しての直接交流は行われませんでした。

そのほか「特別会員事業」や目黒区内での「大岡山西住区販売イベント」を通して、角田の農産物を紹介したほか、「みどりの交流事業」として8種類1,100本の苗木を供給しました。

以上、令和3年度の主な事業活動の概要についてご報告いたしました。このほか、計画に基づき実施した各事業の詳細は以下のとおりです。

1. 地域農業戦略の調査・研究及びシンクタンク機能に関する事業

【地域農業戦略の調査・研究】

自立農業者の育成、ブランド構築のための活動を支援した。

■自立した農業経営体の育成とあぶくま農学校ブランドづくりの展開

自立した農業経営者の育成には、マーケティングを踏まえた顧客志向の農業経営を展開することが必要であるとの視点から実践塾等の事業展開を行う計画であったが、新型コロナの影響により実施できなかった。消費者からの評価を高め信頼を得るため「あぶくま農学校ブランド」農畜産物の販売やPRを行った（後述5の事業を参照）。（ブランド認定使用者は現在22名。）

【シンクタンク機能に関する事業】

インターネット等を用いて、公社の運営状況や角田の農畜産物の情報を発信した。

■ホームページの更新

角田市の農業の情報発信のため、掲載内容を逐次更新し、公社会員、消費者等に広くアピールした。（令和4年2月～令和4年3月のアクセス数 245件、1日平均4.2件）

■農業振興公社だよりの発行

令和3年度は2回発行し、公社事業の実施状況やお知らせ等の情報提供に努めた。

- ① 第45号（令和3年8月1日発行） ②第46号（令和4年1月1日発行）

2. 農地の利用集積促進に関する事業

担い手農家や農業法人の規模拡大、農地の集団化等を円滑に進めるため、農地集積促進員（農業委員（14名）、農地利用最適化推進委員（17名）計31名）と連携を図りながら、また、人・農地プラン地域検討会に参画して、利用調整や集積促進を行った。

■公社流動化担当者、農地集積促進員の活動

【農地集積に関する取扱い件数状況】

単位：件

事業	件数 合計	内 訳			
		新規	再設定	解約	変更
円滑化事業	155	—	—	155	0
中間管理事業	607	557	0	19	31
計	762	557	0	174	31

■農地利用集積円滑化事業

【参考：年次別面積（純増分）の推移】

年次	年次別面積	累計面積	備考
平成12年度	140ha	140ha	合理化法人資格取得
13年度	89ha	229ha	
14年度	71ha	300ha	
15年度	65ha	365ha	
16年度	56ha	421ha	
17年度	76ha	497ha	
18年度	121ha	618ha	
19年度	77ha	695ha	
20年度	172ha	867ha	
21年度	24ha	891ha	
22年度	13ha	904ha	農地利用集積円滑化団体承認
23年度	59ha	964ha	
24年度	68ha	1,032ha	
25年度	76ha	1,109ha	
26年度	39ha	1,148ha	農地中間管理事業業務受託開始
27年度	12ha	1,160ha	
28年度	49ha	1,209ha	
29年度	36ha	1,245ha	
30年度	△91ha	1,154ha	西根担い手農地中間管理事業への変更
31年度	△16ha	1,138ha	農地利用集積円滑化事業 2.3.31 終了
令和2年度	△143ha	995ha	
3年度	△223ha	772ha	枝野地区農地中間管理事業へ一括承継

■農地中間管理事業

宮城県農地中間管理機構（公益社団法人みやぎ農業振興公社）と平成26年度から業務委託契約を毎年締結し、農地の出し手の掘り起こし、受け手（担い手）とのマッチング、農地データ入力、手続きに係る各種書類の作成・整備等の業務を行った。

【農用地の賃貸借事業の令和3年度計画と実績】

区分	機構借り入れ		機構貸し付け	
	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)
計画	400	250	400	250
実績	489	208	204	208

※農用地利用集積計画（機構借り入れ）の年度内公告分で計上

【参考：年次別面積（純増分）の推移】

年次	年次別面積	累計面積	備考
26年度	64ha	64ha	
27年度	132ha	196ha	
28年度	88ha	284ha	
29年度	36ha	320ha	
30年度	149ha	469ha	
31年度	46ha	515ha	
令和2年度	112ha	627ha	
3年度	208ha	835ha	

【参考：公社の仲介面積内訳（令和4年3月末現在）】

事業名	面積	うち田	うち畑
農地利用集積円滑化事業	772ha	715ha	57ha
農地中間管理事業	835ha	806ha	29ha
合計	1,607ha	1,521ha	86ha

【参考：担い手の農地利用集積状況（令和4年3月末現在）】

単位：ha

担い手の区分	経営体数	計	自己所有		借入地		特定農作業受託	
			うち田	うち田	うち田	うち田		
認定農業者	173	2,213.48	359.10	258.76	1,765.46	1648.99	88.92	88.92
他市町認定農業者	2	13.41	8.38	2.72	5.03	3.73		
認定新規就農者	5	1.81	0	0	1.81	0.7		
基本構想水準到達者	4	26.18	9.03	3.37	17.15	15.71		
集落営農組織	5	38.66					38.66	38.66
計	189	2,293.54	376.51	264.85	1,789.45	1,669.13	127.58	127.58

※認定新規就農者：基盤法第14条の4第1項に基づき、市町村から青年等就農計画の認定を受けた経営体

※基本構想水準到達者：農業経営改善計画の終期を迎えた認定農業者のうち、再認定を受けなかったものの、従前の経営面積を維持又は拡大している経営体

※集落営農組織：複数の農業者より構成される農作業受託組織であって、組織の規約を定め、対象作物の生産、販売について共同販売経理を行っている任意組織

集積率

角田市 耕地面積	令和2年度末 集積面積	集積率	令和3年度末 集積面積	集積率
4,410ha	2,308ha	52.3%	2,294ha	52.0%

○平成29年度までは、角田市独自の「認定農業者等への利用集積状況」を掲載していたが、平成30年度からは国が全国的に集計している「担い手の農地集積状況調査」を掲載している。

○角田市耕地面積は、農林水産省統計の令和3年の数字である。

3. 農業経営改善支援事業

角田市基本構想に掲げる農業経営体の育成を図るため、農業経営の相談活動、経営改善計画書の作成支援、認定農業者の経営改善を支援した。

また、簿記記帳の推進を図り、青色申告への移行を推進した。

■経営改善活動実績

区 分	実 績			内 容
	回数等	開催年月日	参加数	
経営改善計画認定制度説明・認定更新	戸別訪問等	3. 4. 1～4. 3. 31	延べ 37 人	認定農業者掘り起こし・経営相談等
パソコン農業簿記定例会	23 回	3. 11. 2～4. 2. 24	延べ 133 人	農業青色申告会 (74 人)
新規就農者支援活動	3 件		延べ 3 人	青年等就農計画作成相談等

■経営改善相談

相談内容	税 務	金 融	認 定 制 度	労 務 管 理	社 会 保 険	マーケテイング	その他
件 数	0	0	37	0	0	0	0
対 応 方 法	税制度の案内	制度資金案内	認定相談案内	問題点の把握	問題点の把握	問題点の把握	パソコン等

■農業経営改善推進会議の開催

- ・令和3年6月2日 農業経営改善計画の審査 新規 1 件 再認定 12 件 計画変更 1 件
経営移譲 1 件 青年等就農 1 件
- ・令和3年8月11日 農業経営改善計画の審査 再認定 4 件 経営移譲 1 件
- ・令和3年11月11日 農業経営改善計画の審査 新規 1 件 再認定 4 件
計画変更 1 件 経営移譲 1 件
- ・書面議決 農業経営改善計画の審査 計画変更 1 件
- ・令和4年3月8日 農業経営改善計画の審査 新規 1 件 再認定 1 件 計画変更 1 件

【参考：認定農業者の状況】

- ・令和3年度末の認定農業者 172 人（平成2年度末の認定農業者 177 人）
内訳：個人 152 人（男 148 人・女 4 人）、法人 19、共同 1
うち県認定：個人 2 人（男 2 人）、法人 1

■農業青色申告会の支援

①相談及び指導

- ・期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日
- ・回数：定例会 23 回、個人入力日 7 回、個別相談及び指導 15 回
- ・内容：データ年度更新・データ入力・決算処理、税務研修会、e-Tax 代理送信（所得税・消費税）申告
- ・参加人員：定例会 133 人・個別指導 15 人・個人入力日 2 人・計 150 人
- ・税理士代理送信 55 人・個人送信 0 人・計 55 人（会員家族 18 名分含む）

②簿記ソフト購入支援

- ・購入助成 1 名 26,400 円（対象簿記ソフト：ソリマチ農業簿記 Ver. 11）

■農業簿記研修会の開催

簿記記帳を普及し経営改善につなげることを目的に、角田地域担い手育成総合支援協議会事業と連携し簿記ソフト操作研修会を開催した。

- ・令和3年11月26日(金) ソリマチ農業簿記操作研修会（初級編・応用編）9 名参加
- ・令和4年1月27日(木) ソリマチ農業簿記操作研修会（決算・確定申告書作成編）17 名参加

4. 農業人材育成に関する事業

令和3年度から新規就農者の確保のために、公社が主体となって就農者の確保に向けた支援を行うという目標を設定したことから、そのシステムづくりや推進方法等を検討するため、関係機関からの情報収集や先進地視察等を実施した。また、角田の現状把握のためJA園芸部会員を対象にアンケート調査を実施した。あぶくま農学校運営委員会や「土の塾」、「出前塾」は、前年度に引き続きコロナ禍のため開催できなかった。経営能力と経営者意識の向上を図るため「風の塾」として、若手農業経営者らを中心に担い手サミットへの参加支援を行う予定だったが、これもコロナ禍により主催者側で事業内容の変更や中止とされた。

【新規就農者支援事業】

■新規就農者確保対策関係

- ・関係機関訪問：令和3年4月27日(火) みやぎ農業振興公社、JAみやぎ中央会
- ・先進地視察：令和3年7月14日(水) 福島県伊達市産業部農政課
一般社団法人伊達市農林業振興公社
- ・JA園芸部会員アンケート調査
調査期間：令和3年10月18日～令和3年11月5日
依頼者数：JA園芸部会員140名
回答者数：86名、回収率：64.1%

■土の塾

中止

【農業人材育成に関する事業】

■あぶくま農学校運営委員会

中止

■農業経営実践塾（出前塾）

中止

■若手農業者育成研修会（『風の塾』）

角田市農業経営者会議や角田地域担い手育成総合支援協議会と共催しながら、若手農業経営者らを中心に担い手サミットへの参加支援を行う計画であったが、コロナ禍によりリモート開催となったため、若手農業者に対しその旨を案内し参加を促した。

- ・全国担い手サミット：令和3年11月18日(木) リモート開催
- ・みやぎ農業担い手サミット：中止

■角田市農業経営者会議活動の連携・支援

角田市農業経営者会議の主催で開催した次の事業を支援した。

- ・市長との農政懇談会：令和3年12月3日(金) 仙南シンケンファクトリーセミナールーム
- ・研修会：中止

■角田地域担い手育成総合支援協議会活動の連携・支援

元気のでるみやぎの担い手育成・確保交付金を活用させていただきながら角田地域担い手育成総合支援協議会の実施する諸事業（研修会、講演会、担い手交流等）を支援する計画であったが、コロナ禍により実施できなかった。

■角田市地域おこし協力隊員活動支援事業

令和4年1月1日から角田市地域おこし協力隊員に委嘱された「農業の振興に関する活動」を行う隊員を公社の非常勤職員として受け入れ、その活動を支援した。

5. 農産物の販売戦略の調査・研究に関する事業

「あぶくま農学校ブランド」の確立と消費者からの信頼を得るため、市内の農産物・加工品の販売やPR、地域のイメージアップを図った。

■角田農業のサポーター（特別会員）の加入促進

令和3年度は10,000円（A、Bコース）5,000円（C、Dコース）を設定し募集を行った。

特別会員数 136 口（前年度 147 口）

【Aコース】57 口 ※凍霜害のため「梨」は無し

10月：朝ごはんセット（新米5キロ、梅干し、納豆、味噌）

12月：麦とろセット（新米5キロ、押し麦、長いも）

1月：角田産いちご（4パック）

【Bコース】10 口 10月：新米20キロ、味噌

【Cコース】61 口 10月：牛肉500g又は400g、秘伝豆800g

【Dコース】8 口 10月：新米10キロ

・特別会員農産物出荷者会議

令和3年5月27日（火）、特別会員農産物出荷者会議を開催し、前年度の結果を報告するとともに、今年度の内容、特別会員事業のねらいや出荷基準及びチラシの作成等について話し合いを行った。

■あぶくま農学校「出前塾」

中止

■地場産酒米の消費拡大の支援

地場産酒米の消費拡大を進める「地酒用地場産米消費拡大推進協議会」の活動（蔵王酒造株式会社、株式会社新澤醸造店と連携したかくだ地酒の普及促進）を支援した。

取り纏め数量：ひやおろし2本組1セット … 160セット

牟宇姫3本組1セット … 180セット

6. 都市消費者等交流事業

食農教育の一環としての農業体験活動や農業・農村に触れる機会の少ない都市消費者との交流を通じて、農業・農村への理解と消費者意識の向上を図った。コロナ禍のため来角又は上京しての直接の交流は行われなかった。

■枝野小学校農業体験交流（農業体験学習）

◎令和3年5月8日（土）：角田農業体験学習“春” ※目黒区からの参加は無し

・参加児童等：枝野小学校児童43名（3年生以上）

・主な内容：田植え体験、あぶくま農学校入校式

◎令和3年10月2日（土）：角田農業体験学習“秋” ※目黒区からの参加は無し

・参加児童等：枝野小学校児童43名（3年生以上）

・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校修了証書授与式

・主な交流内容：下目黒へ苗、土を送りバケツでの田植え、稲刈り、粃摺り等をリモート等で
導しながら体験していただくとともに、枝野小生徒の田植え、稲刈り体験の様子をDVDに記録し下目黒に送付し交流を図った。

■西根小学校農業体験交流（農業体験学習）

◎令和3年5月15日（土）：角田農業体験学習“春” ※目黒区からの参加は無し

・参加児童等：西根小学校全校児童49名

・主な内容：田植え体験、あぶくま農学校入校式

◎令和3年9月18日（土）：角田農業体験学習“秋” ※目黒区からの参加は無し

- ・参加児童等：西根小学校全校児童 49名
- ・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校修了証書授与式
- ・主な交流内容：月光原で行っているバケツ苗や学校内にある水田（2坪程度）の育成に関する相談等に応じるとともに、学校間でもリモートによる交流を行った。

■目黒角田絆交流事業

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、田植え・稲刈り時における目黒区緑が丘の方々との交流は実施されなかった。

令和3年5月30日に田植えが、令和3年9月20日に稲刈りが、いずれも耕作者において行われた。

■北郷小学校農業体験学習

令和3年10月7日(水)：角田農業体験学習“秋”

- ・参加児童：北郷小学校5年生 24名
- ・主な内容：稲刈り体験、あぶくま農学校稲刈り体験証明書授与式

※上記3校の実習田及び絆交流田の水稻生育調査を定期的に行い、ホームページに掲載し情報を発信した。

■あぶくま農学校「出前塾」

中止

■目黒区内の住区等のイベント

- ・大岡山西住区販売イベント：令和3年10月17日(日) 販売額47,000円・16品目(物品のみ)

■目黒区・角田市みどりの交流事業

目黒区が区民に配布する苗木（ムクゲほか）1,100本を、10月から12月にかけて供給した。苗木は(公財)角田市地域振興公社で育成した。

ムクゲ：120本 アジサイ：100本 ウツギ：130本 キンモクセイ：350本

ドウダンツツジ：100本 ハギ：100本 ブルーベリー：100本 アベリア：100本

■東京工業大学留学生角田農村体験交流事業の支援

事業中止

7. 事務局を担う組織・団体等

下記組織の事務局を担当し、また、構成員として参画し、提案や提言を行った。

■事務局のある組織

角田市農業青色申告会、角田市農業経営者会議、角田地域担い手育成総合支援協議会、角田市地酒用地場産米消費拡大推進協議会（おらほの美酒を育てる会）

■構成員となっている組織

角田市農業再生協議会、角田市耕作放棄地対策協議会、角田市人・農地プラン検討会
角田ずんだまつり実行委員会、うめ～梅まつり in かくだ実行委員会、
生涯学習フェスティバル実行委員会